

フローベール、スピノザ、ベルクソン

— 十九世紀フランス文学と哲学

Flaubert, Spinoza, Bergson

— Littérature et philosophie dans la France du XIX^e siècle

日時：2018年5月12日（土） 14:00～17:00

場所：立教大学池袋キャンパス 11号館 A301 教室

フランス語・入場無料・通訳あり

14:00 – 15:15

ジュリエット・アズレ（パリ東大学マルヌ＝ラ＝ヴァレ校／立教大学招へい研究員）

「フローベールとスピノザ的眩暈」

Juliette AZOULAI (Université Paris-Est Marne-la-Vallée / Chercheuse invitée à l'Université Rikkyo),

« Flaubert et le vertige spinoziste »

休憩

15:30 – 16:15

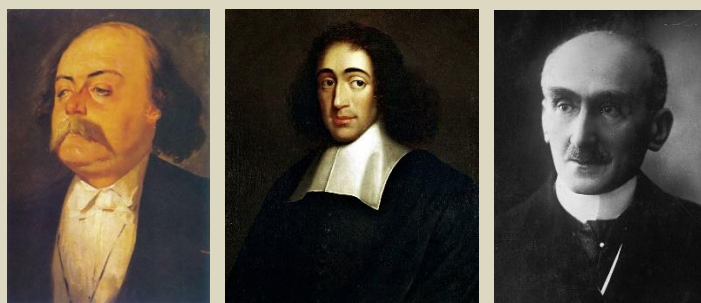
山崎敦（中京大学） 「『ブヴァールとペキュシェ』、懐疑主義小説」

Atsushi YAMAZAKI (Université Chukyo), « *Bouvard et Pecuchet*, un roman sceptique »

16:15 – 17:00

藤田尚志（九州産業大学） 「ピエール・マシュレのために——『文学生産の哲学』の可能性」

Hisashi FUJITA (Université Kyushu Sangyo), « Pour Pierre Macherey — relire *À quoi pense la littérature ?* »



講師略歴：ジュリエット・アズレ氏はパリ高等師範学校出身。ルーアン大学文学博士。2013年よりパリ東大学准教授。フローベールを中心としたフランス十九世紀文学を、同時代のフランス哲学やドイツ・ロマン派との関連で読み解く野心的な研究を行っている。主な著書に『フローベール作品における魂と身体 (*L'Âme et le Corps chez Flaubert*)』（2014）、『フローベール辞典 (*Dictionnaire Flaubert*)』（共編著、2017）など。

主催：立教大学文学部文学科フランス文学専修

司会：菅谷憲興（立教大学）

通訳：黒木秀房（立教大学兼任講師）

問い合わせ先：03-3985-3392（学部事務一課）／菅谷憲興 noriokis@rikkyo.ac.jp